

13
13
1
高さ264cmの石窟庵
レリーフ3体。万博閉幕

2025
大阪万博

昭和45(1970)年に大阪で開かれた国際博覧会(万博)で、韓国館に展示された世界文化遺産、石窟庵(韓国・慶州)の仏像3体のレプリカが、大阪の在韓国人学校に受け継がれている。韓国館建立には在日韓国人による万博後援会が資金を援助した経緯があるため、寄贈された。保存に尽力してきた元美術教師さん(76)は「仏教美術が朝鮮半島から伝来し日本で昇華したように、互いの文化を理解する日韓であってほしい」と話す。2025年の大阪万博でも注目されるよう願っている。

70年万博展示…大阪の在日韓国入学校に

直後に大阪市住吉区の在日韓国人学校、白頭学院に寄贈された。約50年には、石窟庵は1995年にユネスコの世界文化遺産に登録され、現存する複数の仏像が、壁面に設置されている。実物から型を取って製作したものとみられ、十一面觀音菩薩像などの精緻な仏像が残っていたことに感動し

韓国館の仏像レプリカ保存

日韓理解への思い込み



石窟庵(ソックラム) 774年建立。白色の花崗岩の石窟内部の中央に本尊の釈迦如來像が安置され、壁面に菩薩像や金剛力士像など39体の仏像が彫刻されている。十一面觀音菩薩像は本尊の後面にある。



①昭和45年の大阪万博で展示された韓国・石窟庵の仏像レプリカと、保存に尽力してきた吳景萬さん
—大阪市住吉区の白頭学院
—大阪府吹田市



窟庵を訪ねたときの感動があつたからだ。

日本大韓民国民団(民団)

による学生訪韓団で初めて

祖国を訪問。古都・慶州の

山中にある石窟庵に早朝案

内され、日の出とともに、

来像やそれを取り廻む釈迦如

来像が照らし出される光景に心

打たれた。「朝鮮戦争後の

焼け跡がまだ残る貧しい國

に、洗練された美しい彫刻

が残っていたことに感動し

た」と振り返る。

その5年後の大坂万博で、韓国館は太陽の塔のすぐ近くにモダンな建築で出展した。国威をかけて先進国並みに造られた巨大パビリオンは、吳さんの目には「過分なもの」に映ったが、閉幕後に展示品の仏像レプリカが寄贈されることになると、解体作業中のパビリオンから同僚ら十数人がかりで運び出した。

吳さんを含め、当時の経緯を知る教職員はほとんど退職した。2025年の大阪万博に向けて、吳さんは由来を記した銘板を作つて、児童生徒や来校者に祖国との縁を伝えたいと考えている。

吳さんは言う。「國の

ロバガンダやナショナリズムを押し出すのではなく、

市民の文化を表現する万博であつてほしい」